

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075100273		
法人名	竹井不動産有限会社		
事業所名	グループホームひまわり 本館 新館		
所在地	福岡県遠賀郡岡垣町内浦955-1		
自己評価作成日	平成28年1月29日	評価結果確定日	平成28年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JkyosyoCd=4075100273-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成28年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で穏やかな生活が継続できるように、生活環境を整え介護者の接遇に充分配慮している。

普段から利用者個々の状態を把握し小さな変化を見逃さず病院や行政機関と綿密に連携することで、早急な対応が出来るようにしている。毎日の健康観察により月一回の掛かりつけ医への受診や往診時にしっかりと情報提供できるようにしている。

面会や外出・外泊に時間的な制限を設けず、離れて生活する家族との繋がりが継続できるようにしている、介護職員が毎月利用者それぞれの近況報告書を作成することで事業所との連携を保っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時に管理者と職員で創り上げた理念『住み慣れた地域の中で、明るく元気に過ごせるために』を活かして利用者支援を行っている。丘陵地の住宅の中に平屋木造建ての民家風で生活しやすい雰囲気がある。近くには成田山不動尊寺があり、その坂道には桜の木や竹林、四季折々の草花が咲き、玄界灘も見える自然豊かなところである。月々の誕生者に対し個々の希望に沿ったお祝いを工夫している。地域の祭りや行事にも参加し、小学生の職場体験学習の場として受け入れを行っている。野菜を頂いたり植樹祭に参加したりと地域に溶け込んでいる。時には地域住民の送迎を頼まれる事もある。家族からの要望や社会福祉協議会から、認知症に関する講演の依頼があれば管理者が講師として出かけている。利用者・家族が希望するかかりつけ医受診も職員で対応している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が見やすい場所に理念を掲示し、日々のケアに活かしている。	日々の支援の中で、理念『住み慣れた地域の中で、明るく元気に過ごせるために』を基本に職員が利用者に寄り添い利用者の立場に立った気持ちで接している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや敬老会等の送迎を協力して行っている。 小学生五年生の職場体験を受け入れ、他の学年とも交流を持つようにしている	地域で行われる祭りや植樹祭、その他の行事に参加し地域との関わりを持ち利用者にとってより良い支援が出来るよう工夫している。小学生の職場体験学習としても受け入れられている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岡垣町社会福祉協議会と連携し地域の集会などに参加している。 要請により講師の派遣もしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地元自治区の区長だけでなく地域住民の方や、岡垣町役場福祉課と地域包括支援センターからも委員として出席していただき、毎回活発な意見交換が行われている。	各利用者の家族を運営推進会議の委員としている。家族全員が参加できるように日程・時間調整など工夫している。行政担当者や地域包括支援センター、地域の区長など参加していただき事業運営の反映に活かせるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の福祉課担当者からは電話やFAXで様々な研修や講演の情報提供をいただいている。 岡垣町社会福祉協議会と連携し講師の派遣も行っている。	常日頃から行政担当者や地域包括支援センター・社会福祉協議会などと連携・連絡をして関わりを持っている。また、依頼があれば認知症に関する講師として講演も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない介護について十分に理解を深め、緊急時であっても創意工夫し短期間の身体拘束であるよう努めている。 近年は拘束の実績は無い。	7年前に感染症関係での拘束は1件あった。その場合には家族へ説明を行い承諾書を交わしている。その後現在まで身体拘束を行うような事例は発生してない。必要に備えて職員に対してはスタッフ会議等で研修を行い周知してる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者会議やユニット会議では高齢者の虐待防止を念頭に利用者の処遇や環境整備を話し合っている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用いて管理者から介護職員に説明をして理解を深めるようにしているが、これまでに実績は無い。	今現在入居している利用者で権利擁護を利用する該当者はいないが、今後を見据えて職員にはスタッフ会議等を利用し資料などを用いて研修などを実施している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書および重要事項説明書を基に十分な説明をおこない、しっかりと理解をいただき署名捺印していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に『ご意見箱』を設けているが、投書にて意見が寄せられたことは無い。意見や要望は職員が直接受け付けることが多く個人の問題以外は運営推進会議や運営報告書で伝達している。	意見箱を玄関に設けている。家族へは毎月送付する書類等に添えて意見を求めるように努めている。家族の面会時に職員が口頭にて聞き取りを行い、記録を取って運営推進会議等での議題として採り上げている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要により全体会議を実施、毎月運営会議を開催して事業者と職員の意識の統一を図り、各ユニット毎の会議で意見交換を実施している。	職員からの意見や要望などは毎月行うスタッフ会議などで発表し、それぞれの考えを聞き取り利用者支援に反映している。出来ることから取り組むようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力や性質を考慮して職員配置している。労働時間は職員の希望に合うように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	十分に配慮している。	職員採用に際して一番心掛けていることは、人物重視や普通の感覚をもった人、明るく笑顔が良いことなど利用者に沿った対応ができる人を基準と考えている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	人権意識を高める標語を掲示し、常に意識を持って業務にあたっている	毎月行っているスタッフ会議を通じて、認知症コンプライアンスルールの資料を用いて職員への人権教育を実施している。利用者への気配り、心配り、目配りを心掛けている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時にはそれぞれの技量に沿った研修期間を設け、専門知識を深めるための勉強会も実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡垣町福祉施設連絡協議会に参加し、講習や交流を持っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、入居予定者の思いや意向を聞き入れ、入居直後の不安感の軽減をはかるようにしている。 出来るだけ要望を受け入れるようにしている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、入居者にとっての家族や家の有り方について理解を深めてもらい、協力体制を築いている。 出来るだけ要望を受け入れ安心してサービスの利用をしてもらっている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談が有った時は、他の医療・介護サービス利用の有無を確認し、担当者とサービスの継続も含め相談している。 必要なときは岡垣町の高齢者相談センター及び地域包括支援センターと連携している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護を与えていると言う立場にならないように注意し、掃除や片付けなど入居者自身で出来ることは自分でしてもらっている。 自己判断が難しい方でも見守り助言をおこなっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の面談で、入居者にとっての家族や家の有り方を理解していただき、それを利用することで安心して施設での生活が継続できることを説明している。 近況報告書にて毎月状況を報告している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の時間を制約していない。また、外出・外泊は入居者の状況に応じて随時出来るようにしている	家族や友人の面会時間については、利用者が起きている時間内であれば制限はしていない。家族とともに外出や外泊なども自由にしている。馴染みの場所や馴染みの人の所へも職員と共に出かけられるよう工夫している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	聴力が弱い利用者にはスタッフが談笑の間に入りコミュニケーションの橋渡しをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退所した場合でも洗濯やその後の施設変更などの相談を受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ希望に沿うような介護計画を立て、それに則ったケアを実施している	個別ファイルに日々の記録を残し、利用者、家族の思い、要望等を記録しケアに活かせるように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た情報と、日々の暮らしの中で得られた情報を組み合わせ、利用者へのサービス提供に生かしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や入居前に利用していた介護サービスから情報を集め、日々の観察を生かし状態把握につとめている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人を含め、介護にかかわるスタッフからの様々な意見を取り入れ工夫し作成している	現在、センター方式を取り入れ、アセスメントとして活用出来るように工夫している。個別ファイル、センター方式の記録を活用し職員と話し合いながら介護計画書を作成するように努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護状態に変化が有った時はそのつど介護計画を見直している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間の制限を設けず、外出外泊も比較的自由に出来るよう配慮している。家族に送迎の車両が用意できない場合でも、事業所側で送迎するなどそれぞれの状況に合わせ、柔軟に対応するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元民生委員や自治会の代表に運営推進会議へ参加を委託している 敬老祝賀会などの大規模な行事には地区の公民館を活用している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医に定期的な受診できるように、介護スタッフが同行している かかりつけ医の往診も受け付けている	入居前からのかかりつけ医で受診が出来るように心がけている。受診の際は職員が付き添い、医師との関係を築き、結果報告を家族に行っている。受診ノートに記録し職員に周知している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は常勤していないが、協力病院の看護士の訪問を受け入れたり、気安く相談が出来るように日頃から連携を持っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室と頻繁に連絡を取り、入退院や初診の相談を常におこなっている また、病院と家族のカンファレンスに同席し早期の退院に向けた提案をしている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病気や高齢化に伴う身体状況の低下について、日ごろから十分に観察し、状況を家族に報告し必要があれば医療機関に連絡し入院や訪問看護の受け入れを行っている	契約時には、重度化や終末期について説明はしているが看取りは出来ないことを伝えられている。出来る限り施設で対応しているが、医療処置を必要としたときには医療機関に連絡を行い指示を仰いでいる。職員には、終末期、看取りについて研修を行い周知出来るように努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	数年に一度救急救命講習を受けている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災組織に加わっている 非常災害時には屋外に設置したサイレンが鳴動するので、地域の方々に応援いただけたらよう要請している	訓練中にサイレンが鳴ったことで地域の方が駆けつけてくれる協力体制は築けている。	年に2回は訓練を行っている。地域の消防団、消防署の協力を得る取り組みを行い利用者への安全管理の向上に繋がるように期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには十分注意し、親しさの中にも礼儀をもってコミュニケーションをとっている	利用者に対して言葉づかいや羞恥心に心がけ声掛けが出来るように努めている。月1回のスタッフ会議の中で話し合い周知している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の際の洋服や、誕生会の内容を利用者本人から意見をもらい取り入れている			
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の決まりは有るが、利用者個々のペースに合わせ生活できるように配慮している			
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを準備するときには、利用者本人に選んでもらえるよう促している 車椅子利用者でも身だしなみを整えられるように洗面台を工夫している			
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器や盛り付けを工夫している。 状況により盛り付けの手伝いもお願いしている。	利用者の嗜好調査を行いメニュー作りをしている。職員も一緒に同じメニューの食事を試食し、会話の中で味付けなどを語り合い楽しみながら食事をしている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分補給量を記録し、自力摂取が難しい利用者には介助をしている。 自立している利用者にも頻繁に声かけをし、新聞記事などを利用して水分補給の大切さを感じてもらっている			
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状況に応じた口腔ケアを実施している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態や頻度を記録し把握している、出来るだけトイレで排泄できるように援助している	個別ファイル、一日の排泄表に記録がある。利用者の排泄パターンを把握しながら声掛け誘導が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らず、食事や水分補給・腹部マッサージなどで自然な排泄を促している 薬を使う際もかかりつけ医と連携し最小限にとどめている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日風呂を沸かしているが、一日の入浴者は3～4人になるよう日割りで振り分けている 突発的な汚染や、希望によりいつでも入浴できるよう心がけている	午前、午後にいつでも入浴が出来る体制に努めている。入浴中は、利用者と会話をしながら楽しくゆっくりと入浴できる様に心がけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室がゆっくりと寛げる場所になるように配慮している。 夜間の睡眠状況や体調を考慮して、穏やかな声かけにより臥床を促している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬ファイルを作成し管理している。 介護スタッフは個々の診療状況や病状を把握できるよう受診記録を活用している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力を見極められるようにして、それぞれの力が発揮できるようにしている。計算問題を解いたり・散歩・習字・カラオケ・軽運動・ゲーム大会などを実施し、誕生会などで外食を実施している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出や、誕生日会などはその当事者や他の入居者と話し合っ希望に沿うよう工夫している	利用者の誕生日には事前に本人の希望を聞き食事に出かけたり、外出が困難な利用者には施設内で希望に沿った対応を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	状況に応じ対応している 現金の所持は無くなっても困らない程度の金額にしてもらうよう家族・利用者本人と話し合っている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節によって家族や知人に手紙を出せるよう、習字の時間や余暇活動を生かしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本館リビングの壁は珪藻土を使い臭気や湿度の調整をしている、暖かく穏やかな雰囲気 照明を使い華美にならないようにしている 季節ごとの壁面飾りをしたり、わかりやすいカレンダーを掲示している	施設内のリビングは、天井が高く広い空間作りで天井に近い壁には窓があり自然な光がはいるように工夫している。圧迫感が無くゆったりとした雰囲気がある。利用者が折り紙で作ったひな人形の飾り物や花を折って飾り季節感を感じる工夫をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを適宜に配置し、ゆっくりと過ごせるようにしている 利用者の状況に応じ臨機応変に座席配置を工夫している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や、写真を飾っても生活に支障が無いように居室は十分な広さを確保している	利用者の居室入り口に本人の写真を貼って自分の部屋だと直ぐ分かるように工夫している。使い慣れたテーブルや収納ボックスを置き利用者が使いやすいようにしている。壁には利用者の作品や外出した時の写真などを飾り居心地の良い環境作りに努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	花瓶や入居者の作品の展示方法を工夫し安全に移動できるようにしている 状況に応じ手すりを増設している		